

社協ワーカーだより

No.62 平成29年11月

地域みなさんや関係機関の方々に向けて社協ワーカー（職員）の動きや社協の事業について情報発信するお便りです！！



福岡市社協キャラクター
ここと

発行：福岡市社会福祉協議会地域福祉課（TEL720-5356）
各区社会福祉協議会

11月11日は「介護の日」～いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう～

今後、高齢化がさらに進行し、在宅で介護をする人も増えてくることが予想されています。仕事と介護との両立の問題や周囲からの孤立、家事への戸惑い等、様々な悩みを抱えながらも、地域社会や社会資源とつながりにくい方も多いと言われています。

そのような中、在宅介護者の方々が、介護から一時的に離れ、同じ立場の方同士で思いを分かち合える機会として、福岡市社協では、毎年、「①家族介護者のつどい」を実施しています。また、身近な地域での取り組みとしては、区社協が②校區や町単位での介護者のつどい実施の支援を行っています。

～ ①男性家族介護者のつどい「手軽にできる料理教室」～

ふくふくプラザで開催している料理教室は今年で3回目となりました。当日は7人の方に参加していただき、同じ立場の仲間とお話ししながら、楽しく調理・試食しました。

今回のメニュー：ぐい呑み勘定で作る煮魚と根菜の煮物&大根サラダ



毎日のメニューを考えるのが大変なので簡単な料理は参考になります。

さっそく家で作ってみようと思います！



ここがポイント！

2人分の煮魚を作る時は、鍋の隙間を利用して根菜や厚揚げと一緒に煮る。



～ ②南区筑紫丘・東若久校區家族介護者の交流会 ～

当日は、家族介護者、圏域内の福祉施設・事業所の職員、地域関係者、いきいきセンター職員、区社協CSWが参加し、情報交換を行いました。和やかな雰囲気の中で、様々な立場の人たちと話すことで、普段の介護の悩みや、介護の知識など情報交換することができました。

参加した地域関係者の声



今まさに介護に直面している方と、それを乗り越えられた方が参加されていました。乗り越えた方からの経験談やアドバイスを聞くことで、今介護中の方も少し安心されたように思います。



地域のキーパーソン、他機関と連携しながらご家族を支援した事例

区社協に、地域にある美容院から「お客様の A さんが自殺をほのめかす発言をされ、心配。」との相談がありました。緊急性を感じた区社協 CSW が本人宅を訪問するも応答がなく、元々信頼関係のできていた美容師さんに一緒に訪問してもらい、声かけを続けたところ、やっと玄関の扉を開けてくれました。



A さんは、娘と息子と 3 人で生活しており、地域との繋がりがなく引きこもりがちであることや家賃の滞納が続いて 2 日後には家を強制退去なくてはならないこと、手持ち金も少なく数日間何も食べていないこと、相談機関に対して不信感があることなどを涙ながらに話されました。また、話の端々で自殺をほのめかす発言が何度もありました。



このような状況の中で、保護課、生活自立支援センター、区社協とで話し合いの場をもち、A さん家族の支援について知恵を出し合いました。

A さんには、生活保護や一時保護自立支援事業(※)等を紹介しましたが、制度を利用することへの抵抗が強く、サービスに結びつきませんでした。

その後 A さんは強制退去となり、24 時間開いている店や公園で過ごされる日々が数日間続きましたが、その間 CSW は A さん家族の話を傾聴し、何かあったときに SOS を出せるような関係作りに努めました。A さんの制度利用への拒否は続きましたが、CSW が電話で安否や生活状況を確認しながら解決策をいくつか提案し続けたところ、助言を徐々に受け入れられるようになりました。そして現在は、生活保護を受給しながら生活されています。

A さん家族が心を開き、制度利用に至るまでには時間がかかりましたが、A さんが信頼していた地域の美容師さんの力添えもあり、A さん家族と CSW が信頼関係をつくることができました。

また他機関とも連携し支援することで解決方法を提案することができ、最終的には制度へつながることができました。

(※) ホームレスまたはホームレスとなる恐れのある高齢者、障がい者及び児童をとまなう者等が福祉センターに入所し、アセスメントを実施したのち施設入所、住居設定などの福祉的自立を図る制度。



今月の 気— (KEY) になる!! キーワード

「RUN 伴+ (ランともプラス)」



以前 No.39 (平成 27 年 12 月発行) のキーワードで「RUN 伴 (認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながらタスキをつなぎゴールを目指す全国プロジェクト)」を紹介しましたが、地域独自性や柔軟性を活かしたプロジェクト「RUN 伴+」の実施が広がっています。

今年度は福岡市でも RUN 伴+として、11 月 4 日 (土) に市内 8 つのルートをランナーが通ります。「認知症であってもなくても安心して暮らせるまちづくりを応援します」を合言葉に、参加費などの一部は認知症の人も住みやすい、まちづくりの助成などにあてられます。

また、11 月 5 日 (日) には、警固公園から清流公園までのパレードがあり、途中、福銀本店前では孫から認知症の祖母へラブソングを奏でる MISANGA (ミサンガ) による生ライブも行なわれます。

福岡市社協・区社協としても様々な場面でこの取り組みに参加・協力しており、少しでも多くの方が認知症について考え、住民同士がつながるきっかけの場となればと願っています。

(区社協コメント等)